

● 事業の概要 (事業の目的)

- 流域周辺は、主要地方道広島三次線の整備、岩上土地区画整理事業等の宅地開発により市街化
→ 雨水の流出量が増大し、流下能力が不足
- 河川断面が狭小で蛇行しているため、豪雨による溢水や災害が発生
→ 早急な流下能力の向上が望まれている

事業の目的

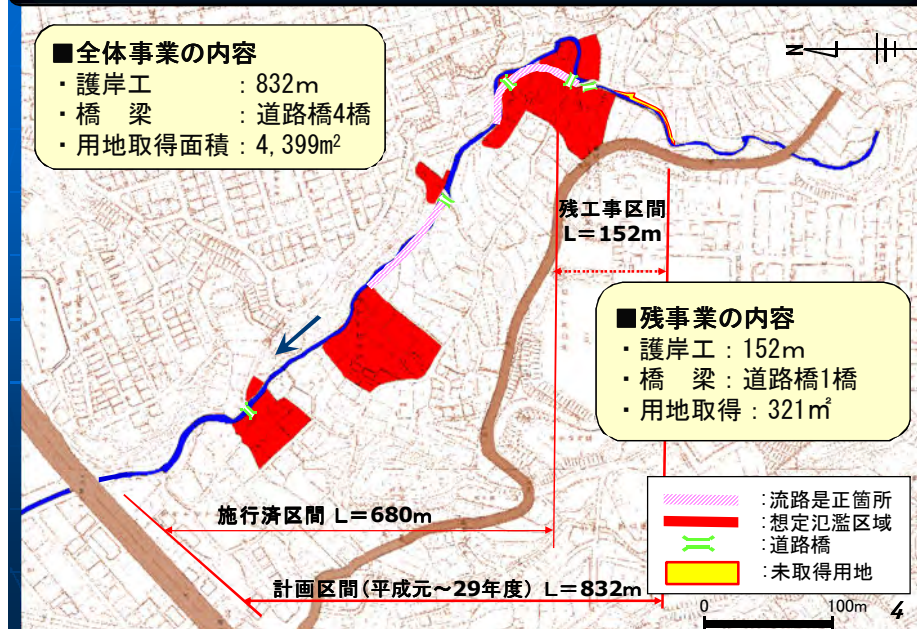
洪水氾濫等の被害軽減を図る
→ 河積の拡大及び流路の是正等を行う

3

● 事業の概要 (事業の詳細内容)

■全体事業の内容

- ・護岸工 : 832m
- ・橋 梁 : 道路橋4橋
- ・用地取得面積 : 4,399m²

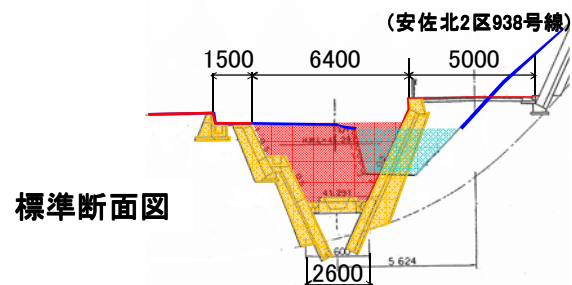


■残事業の内容

- ・護岸工 : 152m
- ・橋 梁 : 道路橋1橋
- ・用地取得 : 321m²

- ・流路は正箇所
- ・想定氾濫区域
- ・道路橋
- ・未取得用地

● 事業の概要 (改修標準断面図)



施工済区間



未施工区間



5

● 事業の概要 (予定事業期間及び事業費)

	当初計画 (平成元年度)	前回再評価時点 (平成20年度)	現在 (今回再評価時点)
事業化年度	平成元年度	—	—
予定期間	平成元～17年度	平成元～29年度	平成元～29年度
全体事業費	4億9,800万円	9億3,600万円	9億3,600万円
全体計画延長	1,260m	832m	832m
事業進捗率	—	80.2%	90.1%

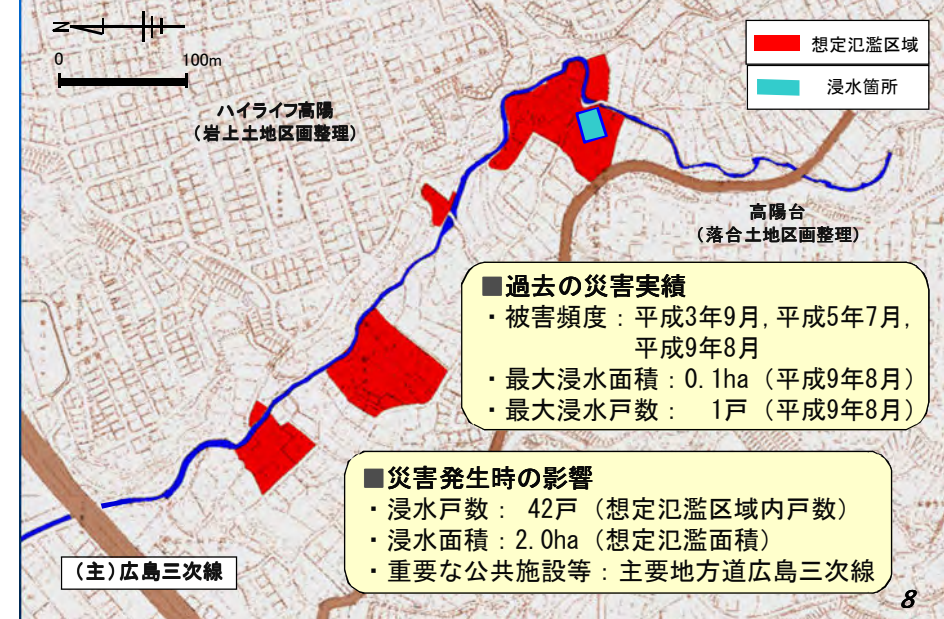
6

● 事業を巡る社会情勢等の変化

- 平成20年度再評価後の5年間において、特筆すべき社会情勢等の変化は見られない
- 参考として、現在の諸状況を示す

7

● 事業を巡る社会情勢等の変化（事業目的に関する諸状況）



8

● 事業を巡る社会情勢等の変化（地域状況）

想定氾濫区域内の資産状況

	ブロック 面積 (m ²)	人口 (人)	世帯数 (世帯)	従業者数 (人)	農漁家数 (人)	延床面積 (m ²)	水田面積 (a)	畑面積 (a)
H20	20,465	126	33	21	12	5,265	52.7	30.7
H25	19,619	115	48	17	4	5,693	49	14

9

● 事業を巡る社会情勢等の変化（地域状況）

地域の協力体制等

- 地域住民の協力を得られ、順調な事業進捗が見込まれる
- 地域住民の世代間の交流の場として活用されている

- 岩上川のホタルを育てる会、落合小学校児童によるゲンジボタルの幼虫の放流、生物観察等の環境保全の取り組み
- 毎年のホタルまつりの開催



関連事業との整合

- 岩上川と並行する市道安佐北2区938号線の道路整備と整合を図りながら実施中

10

● 事業を巡る社会情勢等の変化（前回再評価の内容と対応状況）

平成20年度再評価の内容

■ 対応方針

- ・ 事業継続

■ 対応の根拠

- ・ 整備により浸水被害の低減が図られる
- ・ 順調な事業進捗が見込まれる
- ・ 費用便益比(B/C)が1.0を上回る

■ 審議結果

- ・ 市の対応方針を妥当と認める

この5年間の対応状況

- 本体工事及び用地取得を実施

11

● 事業の投資効果（費用対効果分析）

年平均被害軽減期待額		0.6億円
便益	■ 便益	11.8億円 (7)
	■ 残存価値	0.2億円 (イ)
	■ 総便益 (B)	12.0億円 (7)+(イ)
現在価値化した金額		
全体事業費		9.4億円
費用	■ 建設費	9.2億円 (ウ)
	■ 維持管理費	0.8億円 (エ)
	■ 総費用 (C)	10.0億円 (ウ)+(エ)
現在価値化した金額		
■ 費用便益比 (B/C)		1.2
■ 純現在価値 (B-C)		2.0億円

12

● 事業の投資効果（費用対効果分析・前回再評価と比較）

	平成20年再評価時点	今回再評価時点
便益	9.4億円	11.8億円
残存価値	0.3億円	0.2億円
総便益(B)	9.7億円	12.0億円
建設費	8.8億円	9.2億円
維持管理費	0.7億円	0.8億円
総費用(C)	9.5億円	10.0億円
費用便益比(B/C)	1.0	1.2
純現在価値(B-C)	0.2億円	2.0億円

13

● 事業の投資効果（感度分析）

感度分析

残事業費と残事業期間がそれぞれ10%・1年増減したケースを想定し、費用便益比(B/C)を試算

【分析結果】	費用便益比 (B/C)		
	-10% -1年	±0% ±0年	+10% +1年
残事業費	1.2 (1.21)	1.2 (1.20)	1.2 (1.19)
残事業期間	1.3 (1.25)		1.2 (1.15)

※「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針（共通編）」（国土交通省 平成20年6月）に基づき分析を実施

14

● 事業の投資効果（その他事業の投資効果）

その他事業の投資効果

定性的評価

- 河道の整備により、浸水被害が軽減されるため、
地域住民に「安全・安心」を与えることができる
- 景観やアクセスが良好となるため、
水辺に対する親しみが湧き、
 - ・ イベント等の新たな利用の創出による地域の活性化
 - ・ 地域住民・ボランティア団体等の維持管理への参画が期待できる

15

● 事業の進捗状況

事業の経過

- 平成元年度 事業採択
- 平成2年度 用地取得に着手
- 平成10年度 事業再評価
- 平成11年度 工事着手
- 平成15年度 事業再評価
- 平成20年度 事業再評価

16

● 事業の進捗状況

事業の進捗率

区分	事業費	用地	工事
施行済 (平成24年度末)	8億4,300万円	4,078㎡	680m
進捗率	90.1%	92.7%	81.7%

残事業の内容

- 護岸工事 152m, 道路橋架替工事 1橋, 用地取得等

17

● 事業の進捗の見込み

事業が長期化している理由

- 厳しい財政状況により進捗調整したため

今後の事業進捗の見通し

- 計画的事業執行に努め、平成29年度の完成を予定

18

● コスト縮減や代替案立案等の可能性

コスト縮減の可能性

■ 掘削残土の有効活用

- ・現場発生石の河床材としての活用
- ・周辺の公共事業への流用

■ 既製コンクリート製品導入による工期短縮

■ ボックスカルバートによる橋梁計画・設計の見直し

代替案立案等の可能性

- 当河川では、河道改修が現実的な整備手法であるため、**代替案はない**

19

● 対応方針(案)

対応方針 (案)

事業継続

対応方針 (案) の理由と今後の方針

流域内での市街化の進展に伴う雨水の流出増に対応し、浸水被害から家屋、事業所等を守るため、**早急に流下能力の向上を図る必要がある**ことから、引き続き事業を実施し、平成29年度の事業完成を目指す

20

準用河川岩上川改修事業

再評価

終了

21